

増加する米国のヘルスケア研究投資

◆2017年度のNIH予算は2年連続増の331億ドル

2016年2月、米国オバマ大統領は17年度（16年10月～17年9月）の予算案を発表した。その中で、ヘルスケア研究開発の司令塔である国立保健研究所（NIH）の予算は、16年度に比べ約8億ドル増加し、約331億ドル（約3.6兆円）となった。2年連続の増加であり、米国のヘルスケア研究投資を強める方向が鮮明となっている。3月に下院歳出委員会での公聴会が行われたが、民主、共和両党の議員はこの増加を好意的に受けとめている。米国は、世界最大のヘルスケア市場であるとともに、生物医学研究への最大の公的資金提供国である。米国の研究動向はヘルスケア産業界のトレンドを見るうえで、極めて重要である。

◆重点領域は脳、感染症、がん

個別には、オバマ政権が進めている「Brain Initiative」の一環として、1.95億ドル（1.5億ドル、16年度以下同様）を脳科学の基礎研究に供出する。特に認知症などの脳・精神疾患対策の鍵となる脳地図の作成やイメージング技術、脳ネットワークの解明、脳電気刺激療法に力を入れる。アルツハイマー病研究のために、9.1億ドル（9.1億ドル）を供出する。脳機能とリスク要因の解明、治療と予防の研究を加速する。抗生物質耐性菌の問題に取り組むために4.1億ドル（4.1億ドル）を供出する。抗生物質耐性が、なぜ生じるのか、危険な耐性菌を早期に発見・除去する方法などの研究を支援する。

がん研究のためには、63億ドル（56億ドル）供出する。特に、16年の一般教書演説で言及した「Cancer MoonShot2020」の一環として、がんの免疫療法、早期発見技術、がんワクチンや簡便な血液検査によるがん検診などを追求する。さらに、「Precision Medicine Initiative」を進め、現在実施中のコホート研究（疫学研究）のスケールアップを行う。

15年から開始した日本版NIHである国立研究開発法人日本医療研究開発機構（AMED）の16年度予算は1,265億円である。規模も歴史も異なる米国NIHと張り合うのではなく、協力して補完的な研究を望みたい。 【毛利光伸】